



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2023年  
No.6  
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

## 薬剤変更時の処方間違い



### 事例

#### 【事例の詳細】

アゾセミド錠30mg「JG」0.5錠、スピロノラクトン錠25mg「トーフ」1錠が処方されていた患者に対し、今回はアゾセミド錠30mg「JG」が中止となりスピロノラクトン錠25mg「トーフ」が1.5錠に増量になった。薬剤師が処方箋に記載された検査値を確認すると、血清カリウム値が5.5mEq/Lで、2週間前の4.6mEq/Lから上昇していた。患者家族から、血清カリウム値が上がっているのに薬剤を調節する必要があると医師より話があったことを聴取した薬剤師は、処方変更の内容を疑問に思い、疑義照会を行った。その結果、スピロノラクトン錠25mg「トーフ」が中止になり、アゾセミド錠30mg「JG」2錠に変更となった。

#### 【推定される要因】

処方医が処方内容を変更する際に入力を誤ったと考えられる。

#### 【薬局での取り組み】

処方箋に検査値が記載されている場合は、処方内容のみならず検査値も確認することを徹底する。処方変更があった際は、患者や家族から変更の理由や医師とのやり取りなどを聴き取る。検査値の推移と処方内容に少しでも疑問があれば、疑義照会を行う。



### その他の 情報

#### スピロノラクトン錠25mg「トーフ」の添付文書 2023年3月改訂（第2版）（一部抜粋）

2.禁忌（次の患者には投与しないこと）

2.2 高カリウム血症の患者〔高カリウム血症を増悪させるおそれがある。〕

11.副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 電解質異常（高カリウム血症、低ナトリウム血症、代謝性アシドーシス等）（頻度不明）  
電解質異常に伴い、不整脈、全身倦怠感、脱力等があらわれることがある。



### 事例の ポイント

- 本事例は、検査値の推移と処方変更の内容について検討した薬剤師が疑義照会を行った好事例である。
- 利尿剤など、服用を継続することで電解質異常が起こる可能性がある薬剤が処方された際は、患者の検査値の推移を把握することが大切である。そのためには、薬剤服用歴に検査値を記録し、次回調剤を担当する薬剤師と情報を共有できるようにしておくことも重要である。
- 処方監査を行う際は、診察時の医師とのやり取りを含む患者から聴取した情報、検査値、薬剤服用歴に記録した患者情報など複数の情報から処方内容の妥当性を検討する必要がある。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。